

上部消化管内視鏡（胃カメラ）を受けられる方へ

1. 検査の目的

- ・ 胃や食道や十二指腸の変化や病変を見るために内視鏡を体内に挿入して行う検査です
- ・ 当院では経口と経鼻両方の内視鏡検査が可能です。
- ・ 前者は情報量が多い代わりに異物感が経鼻に比べると強くなります。後者は嘔吐反射が少なくなる一方、鼻出血のリスクが生じます。
- ・ 両者とも病変があれば生検を行うこともあります。

2. 検査の準備

- ・ 前日夕食は通常量よりやや少なめ、検査前日の21時から当日の6時までは水、電解質飲料のみ摂取可能とし、アルコールは飲まないで下さい。（脱水症状の危険性があるため水分補給はしっかりとお願いします。）ただし、当日の6時以降は飲食を避けるようお願いいたします。
- ・ 当日朝7時頃までに、少量の水で血圧、心臓のお薬、安定剤の類を飲んで下さい。ただし、糖尿病の内服薬は飲まないで下さい。
- ・ 喫煙される方はたばこを吸わないで下さい。
- ・ 来院時、体を締めつけすぎない服装でお越し下さい。
- ・ 自転車やバイク、車での来院はしないで下さい。（お薬の影響で事故のリスクが高くなります。）

※検査内容や緊急対応の為、検査時間にずれが生じることがありますのでご了承下さい。

3. 検査の方法

- 1) ベルトやボタンを緩めた状態で検査台に横になります。
- 2) 胃の動きを観察しやすくするため、鎮痙剤を注射します。緑内障、前立腺肥大、心臓病、喘息のある方は、別の薬を使用しますので予めお申し出下さい。
その他、嘔吐反射を極力おさえ楽な検査をご希望の方には安定剤の注射も追加します。状況により鎮痙剤を使わないこともあります。
- 3) 麻酔のゼリーを飲んで喉の奥を麻酔します。嚥下が難しい場合スプレーで麻酔します。指示に従って舌を出していただき、咽頭部に噴霧します。
- 4) マウスピースを指示に従い軽く噛みます（経鼻の場合はありません）。内視鏡が口から喉の方向に挿入されます。
- 5) 「ゴクンして」の合図で嚥下の動作を行い、それに合わせて内視鏡が喉を通過します。
- 6) 可能なら目を開けたまま鼻でゆっくりと呼吸します。喉に溜まった唾液は麻酔がかかっていますので、飲み込もうとせずお口から自然に垂れるようにしてください。
- 7) 検査自体は5～10分前後です。生検等行う場合、更にお時間がかかる場合があります。

4. 検査後の注意

- ・ 検査後は喉の麻酔がある為、約1時間は飲水、飲食は避けてください。最初はお水で一口試してみせない事を確認して下さい。

5. 検査の危険性

- ・ 内視鏡の有害事象として、消化管穿孔、出血、腹膜炎、迷走神経反射によるショック等が起こり得ます。状況に応じ緊急の処置が必要となる場合があります。

検査同意者

連絡先 〒273-0044

平成 年 月 日

船橋市行田 3-2-23

お名前 _____ 印

船橋行田クリニック

親族・後見人 _____ 印

TEL 047-430-7177